

学園長プラン（平成26年10月16日 第256回理事会）

学園長 有馬朗人

はじめに

今年3月の理事会・評議員会において、根津理事長より「理事長ドクトリン」が示されました。以下は、理事長の方針を受けて、その実現を図るために、私が学園の校務統括者として、武蔵大学、武蔵高校中学において、学園創立百周年となる2022(平成34)年4月までにめざすべきビジョンを示し、実行すべき課題を挙げて大学、高校中学に検討と具体化を求めるものです。

1. 学園全体でめざすべきビジョン

武蔵学園は、学園創立百周年を目標に、大学・高中とも、

「世界に開かれたリベラルアーツの学園」となることをめざす。

中/高/大一貫したシームレスな、「世界とつながる」教育コースを創設する。

2. ビジョンの具体化に向けて

2.1 背景

理事長ドクトリンの以下の認識をこのプランでも受け継ぐものです。

20世紀末、東西冷戦の終結と共に、地球規模での貿易・金融と人的交流の拡大が起き、さらにインターネットの普及により情報の交流が急激に拡大しました。21世紀には「国家」という概念を超えた、いわゆるボーダーレス化が、経済、政治、文化の様々な分野で一層進むことでしょう。日本の片隅に住んで「世界」から目を背けていても、否応なく「世界」は向こうからやって来ます。

グローバル化とは、地球の多様な国々に住む人々の間が近くなり、お互いに影響を及ぼし合うようになることです。私達が教育している、学生・生徒達は、そのグローバル化、ボーダーレス化の進む地球の市民として、21世紀の世界に出て行くことになります。

90年前、日本の教育界がまだ、殆ど「世界」に目を向けていなかった頃に「東西文化の融合を担う人物」「世界に雄飛するにたえる人物」を育てることを掲げた武蔵だからこそ、グローバル化の進む世界にふさわしい人間を育てて行かなければならないと思います。

2.2 何故リベラルアーツ教育なのか

武蔵大学、武蔵高校中学は、三理想の下、旧制七年制の武蔵高等学校をルーツとして創設されました。さらに、学園創立50周年記念事業における武蔵大学の学部増設、20世紀末武蔵高中四クラス一貫化の際の「武蔵という枠にとられない幅広いリベラルアーツの中で、創造性を高める教育をめざす」等折々の施策においても、武蔵の志向するところは、リベラルアーツの担い手たる学園でした。2005(平成17)年に策定された武蔵学園将来構想においてもその考え方は一貫しています。

リベラルアーツ教育とは、人間として必要な創造力、想像力、論理的思考力、判断力、応用力などを養うために、文理の壁や科目の別を超えて、自然、人文、社会に及ぶ広い基礎的な教養と科学とを学び、深い知に至ることです。

日本の戦後教育制度では、リベラルアーツ教育の担い手が不明確なところがあり、そのことは、地球規模での交流が進む世界の教育状況に、我が国教育機関がアクセスする上で、問題の一つともなっています。

旧制七年制高等学校以来のリベラルアーツ教育のルーツを再確認し、その現代における姿として、再度リベラルアーツ教育によって世界とつながることを掲げ、少数教育の伝統を維持しつつ、大学、高中とも世界の学校に伍して、一流の国際的な評価を得られる学校としていくことを目標としたいと思います。

2.3 リベラルアーツ教育の方向

武蔵大学では、卒業生の大半が社会に出て就職しているという現実を踏まえ、戦後の大学制度にあった一般教育と専門教育の別にこだわることなく、社会に出た卒業生にとって、必要で実となる総合的な教養としてのリベラルアーツの体系を、柔軟に身につけていくことの出来るような大学のありようを目指して、所要の改革を計画してください。

これまでの専門教育の体系だけにこだわらず、文理の壁を越えた 21 世紀の学問の在り方を見据えて、新しい学問の体系を再構築することを検討してください。

また、少数教育の伝統を維持し、上記を目指すためには、情報コミュニケーション技術を駆使した教育手段の積極的活用など、新しい教育手法にも大胆に取り組む必要があることを付言します。

一方、少数ではあっても、外国語で授業を受け、海外大学の単位、学位を取得し、大学院、就中海外の大学院に進むような質の高い学生を育てていくことも重要な課題です。武蔵大学の声価をさらに高めるため、「芯となる新しい層を育てる」仕組みの構築に取り組んでください。

また、少子化の中で、敢えて増員を考えるとすれば、この「芯となる新しい層」の定員化を図ることを検討するべきと思います。

高校中学においては、旧制七年制高校が、戦後制度における中等教育と大学一般教育課程を併せたものであった事実を顧みて、諸般の施策を検討していきたいと思います。

いわゆるスタンダードな中等教育とは異なる、若年からのリベラルアーツ教育の要素は、今日も「武蔵らしい教育」の中に潜在しているものと思います。それらを活かし、生徒が志望する大学へ進めるように、支援の仕組みの構築に取り組んでください。

国内大学はもちろん、海外大学への進学、さらには「海外大学院への進学」につながる教育

の仕組みを構築することも目指して、所要の改革を計画してください。

武蔵高校中学は、生徒が早期に志を立てて、進路目標を定め、自ら勉学に励み、志望の道に進めるために、きめ細かく必要なサポートを行える学校でありたいと思います。

2.4 高大連携、共通課題

大学における「芯となる新しい層を育てる仕組み」、高校中学における「海外大学院への進学につながる教育の仕組み」は、学園共通の課題として高大連携して取り組むべきものです。

具体的には、武蔵高校中学から海外を目指す生徒が、武蔵大学の提供する国際化教育を活用し、できれば通常の学齢よりも早く、海外大学院に進める経路を検討してください。

2.5 経営との整合

このプランの検討にあたっては、教育研究の範囲にとどまらず、学園経営との整合を図ることが必要です。具体的には、

- 学生、生徒が求める進路を支援し、学園の価値を高めるための諸施策
- 良質な入学者を確保し、高質な教育を実現するための諸施策
- 学園の財務体質を向上させ、収益力を高めるための諸施策
- 学園の教職員の処遇向上に資する諸施策

等と、このプランが矛盾なく整合していくように、事務局各部門とも緊密に連携して検討を進めていくことを求めます。